

令和元年度 授業改善推進プラン 調布市立(石原小)学校

【児童・生徒の学力向上を図るための調査結果の分析より】

【学力向上に関する学校経営方針】
◆学ぶ気持ちの育成◆
 子どもたちの学ぶ気持ちを大切に、学力を向上させるために、校内研究の推進、教師の授業力向上に努める。
 ①達成感・充実感を育てる授業…できなくて、わからなくて当たり前。できた喜びを大切に、子どもの学ぶ気持ちを育てる。
 ②「外国語に親しみ、学んだことを活用しながらコミュニケーションを取ろうとする児童の育成」授業の推進…校内研究では、外国語科・外国語活動を中心に、教師の授業力向上を図る。
 ③読書活動の充実…本との出会いは人生を豊かにし、豊かな心や学習の土台となる。また、児童の知的好奇心を育む。
 ④オリンピック・パラリンピック教育の推進…子どもたちの健康・体力の増進、国際理解・障害者理解の教育を進める。
 ⑤個に応じた支援の充実…子どもたち一人ひとりの個性をとりえ、その伸長を目指す。日本語指導・算数習熟度別指導の工夫・改善を図る。
 ⑥いしわら教室の充実…困っている一人一人の子どもを支援する。いしわら教室の指導法を通常学級に生かす。

【令和元年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」に関する調査結果分析内容】
 ○理数系の学習内容定着に課題がある。
 ○成績の分布は正規分布とならず、定着の度合いが二階層に分かれている。
 →問題を読み取り正確に理解するために、読解力の向上や語彙の増加が必要である。読書や暗唱、ドリル学習を疎かにせず、基礎的な知識を身に付けさせる。
 →主体的な学習により、学習の効果を上げる。そのために、問題解決的な学習を目指し、授業改善を図る。
 →算数では、習熟度別指導を活用・充実させ、児童の実態に応じて授業展開を工夫する。

【授業改善の方針・目標】

①主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。 ②基礎・基本の徹底を図る。 ③外国語科・外国語活動を中心に、授業改善を図る。

【授業改善のための具体的な取り組み】

①主体的・対話的で深い学びを目指し、習熟度別指導や問題解決型学習の充実など、授業改善を図る。
 ②問題解決型の授業展開、板書方法、ノート指導等の効果を高めるため、全校で共通の取り組みを進め、「石原スタンダード」を確立していく。
 ③「外国語に親しみ、学んだことを活用しながらコミュニケーションをとろうとする児童の育成～主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点から～」をテーマに、外国語科・外国語活動の授業研究を中心とした校内研究を進める。

各学年の重点指導項目(英語活動)					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
理解を深めるために、具体物や絵カード、映像資料を活用する。 見通しをもたせるための授業展開はパターン化する。 フラッシュ学習等、反復練習をして定着を図る。 ペアでの対話や少人数での発表練習などを取り入れ自信をもたせて学習に臨ませる。	理解を深めるために、具体物や絵カードを活用する。 見通しをもたせるために授業展開はパターン化する。 フラッシュ学習等、反復練習をして定着を図る。 ペアでの対話やゲーム活動などを取り入れ、主体的に学習できる場を確保する。	見通しや興味をもてるような導入を工夫する。 理解を深め意欲を高めるために、絵カードを活用する。 フラッシュカードなどによる反復練習をして定着を図る。 意欲的に活動できるような場を設定し、場に応じて考えながら表現活動を楽しめるようにする。	見通しや興味をもてるような導入を工夫する。 理解を深め意欲を高めるために、絵カードを活用する。 フラッシュカードなどによる反復練習をして定着を図る。 意欲的に活動できるような場を設定し、場に応じて考えながら表現活動を楽しめるようにする。	見通しをもって活動できるように導入を工夫する。 反復練習をして定着を図る。 振り返りを大切に、次時への学習意欲につなげたり、新たな疑問を見つげたりできるようにする。 既習事項を他の教科や日頃の生活に生かす教科横断的な学びができる環境づくりに努める。	見通しをもって活動できるように導入を工夫する。 反復練習をして定着を図る。 活動を通して、自己理解・他者理解を深め、コミュニケーションの楽しさを実感できるようにする。 コミュニケーションギャップなど目的意識のもてる場を工夫し、主体的に表現活動を楽しめるようにする。
(国語)読解力が不十分のため、読む力のベースになる読書指導を充実させ、読み取りの視点を与えて読む習慣をつけさせるなど読解力をつける指導に重点を置く。漢字の読み書きが苦手な児童が多いため、朝学習等で漢字の学習を繰り返し行い、定着を図る。					
(社会)調布市の位置や都道府県名など基本的な知識の定着を図る。また、資料から情報を正確に読み取るため、資料を活用する場面を意識的に多く入れる。					
(算数)基礎・基本の力を向上させるために、四則計算の練習問題に取り組む。児童が自分の考えを明確にもち、友達と交流して考えを深められるノート指導と場の設定に重点的を置く。図や式や算数の用語を使いながら自分の考えをしっかりと表現できるようにしていく。					
(理科)観察や実験の結果を表やグラフにまとめ(結果の見える化)、傾向を読み取り、共有して深める機会を多くする。基礎的事項を押さえて定着を図るとともに、話し合いながら考えを練り上げる場を設定し、深い学びにつながる授業を目指す。					
(体育)授業後の振り返りを大切に、児童の達成感や体を動かす面白さに気付くようにする。体育の楽しさを味わわせ、運動に親しむ児童を増やす。					
(音楽)音楽の基本要素(リズム、旋律、強弱など)を理解した上で、表現の工夫ができるよう、音楽の仕組みや音楽にかかわる用語をおさえながら指導をしていく。					
(図工)造形活動の基礎・基本となる材料・用具、色や形のイメージに関する体験を充実させる。鑑賞教材や話し合い活動、発想を広げるための手立てを効果的に取り入れ、どの子も自分なりに考えをもって表現する力を伸ばす。					
(家庭)布を用いた制作活動では、基礎的・基本的なことを習得し、生活に生かすことのできる技能の定着を図る。また、日常食べている食品に含まれる栄養素の種類や働きを調べたり発表したりして、知識の定着を図る。					
(生活)実物に触れる機会を多く設定し、自然や人とかかわる体験を多くさせる。また、気付いたことを互いに伝え合う場を設けることで、気付きをさらに深めていけるようにする。					

【取り組みの進行・管理、評価方法、時期】

・8月中に各学年において、より具体的な各教科の授業改善策や重点指導項目を明示した授業改善プランの補助資料を作成する。
 ・10月末に研究推進部を中心に各学年、専科教員による中間評価を行う。評価は授業改善推進プラン補助資料に示した評価規準に沿って実施し、適宜目標の見直しや修正を行う。
 ・2月末に研究推進部を中心に各学年、専科教員で最終評価を行う。また併せて保護者や地域による学校評価から授業改善推進プランの効果を検証し、次年度の指導計画の作成に活かす。